

新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

評価者のコメント

プロジェクト 書店店頭とネットワークでの電子出版の販売を実現するハイブリッド型電子出版流通の基盤技術の標準化及び実証
代表機関 株式会社インフォシティ
共同提案組織 日本書店商業組合連合会、ハイブリッドebookコンソーシアム

(1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

●試み自体の意義は理解するし、SDのような形での書籍販売があってもよいと思うが、今回の試みのなかで、それがオンライン配信に比べて優位性があるといったことは示されていないように思われる。また、紙の本を扱うリアルな書店を十分に活用したプロジェクト内容にはなっていない点が残念である。

●実験及びアンケートは興味深い。国際標準化の活動は評価できる。ただし将来の方向性について分からなかった。

●書店店頭での電子出版の販売を実現するパッケージ販売とネットワーク販売を組み合わせた新しい電子出版流通基盤の実証実験ができたことは評価できる。また、SD—SD eBook規格を発表できた点も評価できる。

●利用者にとって書店店頭でパッケージ販売を必要とするか疑問である。この点の調査がないように思われる。

●このハイブリッド型電子出版流通の基盤技術は、ビジネス性が高い。

(2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

●SDのような形での電子書籍流通のモデルが今後どのような可能性があるのか、ビジネスモデルとして成り立ちうるのかどうかを例えば音楽CDの販売モデルなどと比べて検討されるとよいのではないかと思う。

●SD ebookについて適切なビジネスモデルを検討すべき。もっと多様な書店との関係を模索してほしい。リーダー、アプリの普及に努力してほしい。

- 平成24年度の取組みについて「検討中」と記載してあるのは問題。今回の実証実験での店頭サービスは不十分であり、より人々が足を運びたいくなるようなサービスを創出すべきである。さらなる実証実験を行うべきである。
- 「4. 電子出版の流通促進のための情報共有クラウドの構築と書店店頭での同システムの活用施策プロジェクト」との協力が望まれる。